

五 無産黨合同に就いて、

吾党の圧例的發展と大衆の間に於ける狂熱的信望の拡大
とによつて、幾多の不純なる分子の侵入に対しては極力之れを戒
慎せねばならぬ。殊に既成政党内部に於ける、若しくは當日
つて既成政党々員たゞし者にして、吾党々員たらんとする
もの、少くは、單に吾党の自熱的人氣を踏台として自己の
野心を遂行せんとする以外の何者でもなく、且若し彼等
にして、吾党々員たらんか、其の野心のために党内党を作り
て党全体を攪乱し以つて吾党の内部的戰鬥力を減殺し
延びて対外的信望を矢墜させるに到ること必定であるが故
に、各支部に於ては彼等の蠶食に対して最大の注意を怠ら
ざるやう、努めねばならぬ。

無産黨相互間の合同問題に就いては吾党本部の從來執
り来つた態度を其儘忠實に繼承するものである。

従つて此の方針から吾九州聯合會各支部に於ても、左翼
及び中間派幹部にして個人的に吾党の傘下に投じ来らんと
する者に対しては出来る限り慎重なる態度をとり、一に其
の最後の決定は聯合會本部の指令に従はれんことを希
望するものである。

六 結語

今や、独り吾口に於てばかりでなく、全世界を挙げて社会民主
主義の諸勢力は潮の如く澎湃として勃興しつつある。
英口に於て、吾等の支党労働党が内閣を組織せらるを始
めとして佛蘭西に於て、独乙に於て、將又壤太利に於て其他多
くの國々に於て、社会民主主義の大神は、狂燥的小兒病工

の國々に於て、社会民主主義の大神は、狂燥的小兒病工